



## ファームウェアのトラブルシューティング

- [アップグレード中のファブリック インターコネクットの回復, 1 ページ](#)
- [ファームウェア アップグレード中の IO モジュールの回復, 8 ページ](#)

### アップグレード中のファブリック インターコネクットの回復

1つまたは両方のファブリック インターコネクットがフェールオーバーまたはファームウェア アップグレード中に失敗した場合は、次のいずれかのアプローチを使用してこれらのファブリック インターコネクットを回復できます。

- ファブリック インターコネクットに稼働中のイメージがない場合にファブリック インターコネクットを回復する。
- ファブリック インターコネクットに稼働中のイメージがある場合にファブリック インターコネクットを回復する。
- アップグレードまたはフェールオーバー中に無応答のファブリック インターコネクットを回復する。

### ファブリック インターコネクットまたはブートフラッシュに稼働中のイメージがない場合のファブリック インターコネクットの回復

両方または一方のファブリック インターコネクットがファームウェア アップグレード中にダウンし、リポートされ、ローダープロンプトで停止した場合、かつファブリック インターコネクットに稼働中のイメージがない場合は、次の手順を実行できます。

ファブリック インターコネクトまたはブートフラッシュに稼働中のイメージがない場合のファブリック  
インターコネクトの回復

## 手順

**ステップ 1** スイッチをリブートし、コンソールで **Ctrl+L** キーを押して、起動時にローダー プロンプトを表示させます。

(注) ローダー プロンプトを画面に表示するには、選択したキーの組み合わせを複数回押さなければならない場合があります。

例 :

```
loader>
```

**ステップ 2** TFTP を通じてキックスタート イメージを受信するようにインターフェイスを設定します。

a) loader> プロンプトでシステムのローカル IP アドレスとサブネット マスクを入力して、**Enter** キーを押します。

例 :

```
loader> set ip 10.104.105.136 255.255.255.0
```

b) デフォルト ゲートウェイの IP アドレスを指定します。

例 :

```
loader> set gw 10.104.105.1
```

c) 必要なサーバからキックスタート イメージ ファイルを起動します。

例 :

```
loader> boot  
tftp://10.104.105.22/tftpboot/Images.3.0.2/ucs-6300-k9-kickstart.5.0.2.N1.3.02d56.bin  
switch(boot)#
```

(注) ブートフラッシュにキックスタート イメージがある場合は、このステップは不要です。

**ステップ 3** switch(boot)# プロンプトで **init system** コマンドを入力します。  
このコマンドによって、ファブリック インターコネクトが再フォーマットされます。

例 :

```
switch(boot)# init system
```

**ステップ 4** 管理インターフェイスを設定します。

a) 設定モードに変更し、**mgmt0** インターフェイスの IP アドレスを設定します。

例 :

```
switch(boot)# config t  
switch(boot) (config)# interface mgmt0
```

b) **ip address** コマンドを入力して、システムのローカル IP アドレスとサブネット マスクを設定します。

例 :

```
switch(boot) (config-if) # ip address 10.104.105.136 255.255.255.0
```

- c) **no shutdown** コマンドを入力して、システムで mgmt0 インターフェイスを有効にします。

例 :

```
switch(boot) (config-if) # no shutdown
```

- d) **ip default-gateway** コマンドを入力して、デフォルトゲートウェイの IP アドレスを設定します。

例 :

```
switch(boot) (config-if) # exit  
switch(boot) (config) # ip default-gateway 10.104.105.1
```

- e) **exit** を入力して、EXEC モードを終了します。

例 :

```
switch(boot) (config) # exit
```

- ステップ 5** キックスタート、システム、および Cisco UCS Manager 管理イメージを TFTP サーバからブートフラッシュにコピーします。

例 :

```
switch(boot) # copy  
scp://<username>@10.104.105.22/tftpboot/Images.3.0.2/ucs-6300-k9-kickstart.5.0.2.N1.3.02d56.bin  
bootflash://  
switch(boot) # copy  
scp://<username>@10.104.105.22/tftpboot/Images.3.0.2/ucs-6300-k9-system.5.0.2.N1.3.02d56.bin  
bootflash://  
switch(boot) # copy  
scp://<username>@10.104.105.22/tftpboot/Images.3.0.2/ucs-manager-k9.3.0.2d56.bin bootflash://
```

- ステップ 6** (任意) ブートフラッシュに installables および installables/switch ディレクトリを個別に作成します。

例 :

```
switch(boot) # mkdir bootflash:installables  
switch(boot) # mkdir bootflash:installables/switch
```

- ステップ 7** キックスタート、システム、および Cisco UCS Manager イメージを installables/switch ディレクトリにコピーします。

例 :

```
switch(boot) # copy ucs-6300-k9-kickstart.5.0.2.N1.3.02d56.bin bootflash:installables/switch/  
switch(boot) # copy ucs-6300-k9-system.5.0.2.N1.3.02d56.bin bootflash:installables/switch/  
switch(boot) # copy ucs-manager-k9.3.02d56.bin bootflash:installables/switch/
```

- ステップ 8** 管理イメージが nova-sim-mgmt-nsg.0.1.0.001.bin にリンクされていることを確認します。  
nova-sim-mgmt-nsg.0.1.0.001.bin は予約済みシステム イメージが使用し、管理イメージを Cisco UCS Manager 準拠にするための名前です。

ファブリック インターコネクトまたはブートフラッシュに稼働中のイメージがない場合のファブリック  
インターコネクトの回復

例 :

```
switch(boot)# copy bootflash:installables/switch/ucs-manager-k9.3.02d56.bin
nuova-sim-mgmt-nsg.0.1.0.001.bin
```

**ステップ 9** スイッチをリロードします。

例 :

```
switch(boot)# reload
This command will reboot this supervisor module. (y/n) ? y
```

**ステップ 10** キックスタート イメージから起動します。

例 :

```
loader> dir
nuova-sim-mgmt-nsg.0.1.0.001.bin
ucs-6300-k9-kickstart.5.0.2.N1.3.02d56.bin
ucs-6300-k9-system.5.0.2.N1.3.02d56.bin
ucs-manager-k9.3.02d56.bin
loader> boot ucs-6300-k9-kickstart.5.0.2.N1.3.02d56.bin
switch(boot)#
```

**ステップ 11** システム イメージをロードします。

システム イメージが完全にロードされたら、[Basic System Configuration Dialog]ウィザードが表示  
されます。このウィザードを使用してファブリック インターコネクトを設定します。

例 :

```
switch(boot)# load ucs-6300-k9-system.5.0.2.N1.3.02d56.bin
Uncompressing system image: bootflash:/ucs-6300-k9-system.5.0.2.N1.3.02d56.bin
```

...

---- Basic System Configuration Dialog ----

```
This setup utility will guide you through the basic configuration of
the system. Only minimal configuration including IP connectivity to
the Fabric interconnect and its clustering mode is performed through these steps.
```

...

```
Apply and save the configuration (select 'no' if you want to re-enter)? (yes/no): yes
Applying configuration. Please wait.
```

Configuration file - Ok

**ステップ 12** Cisco UCS Managerにログインし、ファームウェアをダウンロードします。

例 :

```
UCS-A# scope firmware
UCS-A /firmware # download image scp://<username>@<server ip>//<downloaded image
location>/<infra bundle name>
Password:
UCS-A /firmware # download image scp://<username>@<server ip>//<downloaded image
location>/<b-series bundle name>
Password:
UCS-A /firmware # download image scp://<username>@<server ip>//<downloaded image
location>/<c-series bundle name>
Password:
UCS-A /firmware # show download-task
```

```

Download task:
File Name Protocol Server          Userid          State
-----
ucs-k9-bundle-b-series.3.0.2.B.bin
Scp          10.104.105.22  abcdefgh       Downloading
ucs-k9-bundle-c-series.3.0.2.C.bin
Scp          10.104.105.22  abcdefgh       Downloading
ucs-k9-bundle-infra.3.0.2.A.bin
Scp          10.104.105.22  abcdefgh       Downloading
UCS-A /firmware #
    
```

**ステップ 13** ファームウェアのダウンロードが完了したら、ファブリックインターコネク  
トファームウェアと Cisco UCS Managerファームウェアをアクティブ化します。  
このステップにより、Cisco UCS Managerおよびファブリック インターコネク  
トが目的のバージョンに更新されてリブートされます。

例 :

```

UCS-A# scope fabric-interconnect a
UCS-A /fabric-interconnect* # activate firmware kernel-version 5.0(2)N1(3.02d56)
ignorecompcheck
Warning: When committed this command will reset the end-point
UCS-A /fabric-interconnect* # activate firmware system-version 5.0(2)N1(3.02d56)
ignorecompcheck
Warning: When committed this command will reset the end-point
UCS-A /fabric-interconnect* # commit-buffer
UCS-A /fabric-interconnect # exit

UCS-A# scope system
UCS-A /system # show image

Name                                     Type          Version
-----
ucs-manager-k9.3.02d56.bin              System        3.0(2d)
UCS-A /system # activate firmware 3.0(2d) ignorecompcheck
The version specified is the same as the running version
UCS-A /system # activate firmware 3.0(2d) ignorecompcheck
The version specified is the same as the running version
UCS-A /system #
    
```

## ブートフラッシュに稼働中のイメージがある場合のアップグレード中 のファブリック インターコネク トの回復

次の手順は、両方または一方のファブリック インターコネク  
トがファームウェアアップグレード  
中にダウンし、リブートされ、ローダー プロンプトで停止した場合に実行できます。

### はじめる前に

次の手順を実行するには、ブートフラッシュに稼働中のイメージが存在する必要があります。

### 手順

**ステップ 1** スイッチをリブートし、コンソールでCtrl+L キーを押して、起動時にローダー プロンプトを表示  
させます。

(注) ローダー プロンプトを画面に表示するには、選択したキーの組み合わせを複数回押さなければならない場合があります。

例：  
loader>

**ステップ 2** **dir** コマンドを実行します。  
ブートフラッシュ内の使用可能なカーネル、システム、および Cisco UCS Manager イメージのリストが表示されます。

例：  
loader> **dir**  
nuova-sim-mgmt-nsg.0.1.0.001.bin  
ucs-6300-k9-kickstart.5.0.2.N1.3.02d56.bin  
ucs-6300-k9-system.5.0.2.N1.3.02d56.bin  
ucs-manager-k9.3.02d56.bin

**ステップ 3** ブートフラッシュからカーネル ファームウェア バージョンを起動します。  
(注) ここで使用できるカーネル イメージが、起動できる稼動イメージです。

例：  
loader> **boot ucs-6300-k9-kickstart.5.0.2.N1.3.02d56.bin**

**ステップ 4** 管理イメージが `nuova-sim-mgmt-nsg.0.1.0.001.bin` にリンクされていることを確認します。  
`nuova-sim-mgmt-nsg.0.1.0.001.bin` は予約済みシステム イメージが使用し、管理イメージを Cisco UCS Manager 準拠にするための名前です。

例：  
switch (boot) # **copy ucs-manager-k9.1.4.1k.bin nuova-sim-mgmt-nsg.0.1.0.001.bin**

**ステップ 5** システム イメージをロードします。

例：  
switch (boot) # **load ucs-6300-k9-system.5.0.2.N1.3.02d56.bin**

**ステップ 6** Cisco UCS Manager にログインし、ファブリック インターコネクと Cisco UCS Manager ソフトウェアを必要なバージョンにアップデートします。

---

## アップグレードまたはフェールオーバー中の無応答のファブリック インターコネクットの回復

アップグレードまたはフェールオーバー中は、新たなリスクを避けるため、次のタスクを実行しないでください。

- Pmon の停止と開始
- FI のリブート（電源の再投入または CLI）
- HA フェールオーバー

## 手順

- ステップ 1** CSCup70756 で説明されているように `httpd_cimc.sh` プロセスが失われた場合、KVM にアクセスできなくなります。フェールオーバーを続けるか、Cisco テクニカル サポートに連絡します。
- ステップ 2** プライマリ側で KVM にアクセスできなくなった場合は、フェールオーバーを続行して問題を解決します。
- ステップ 3** セカンダリ側で KVM が必要であるか、またはダウンしている場合は、デバッグ プラグインを使用してそのサービスのみを開始します。デバッグ イメージを実行するには、TAC にお問い合わせください。
- ステップ 4** CSCuo50049 で説明されている `/dev/null` 問題が発生した場合は、必要に応じて両方のステップでデバッグ プラグインを使用して権限を 666 に修正します。Cisco テクニカル サポートに連絡してデバッグ コマンドを実行します。
- ステップ 5** CSCup70756 および CSCuo50049 の両方が発生した場合、VIP が失われる可能性があります。VIP が失われた場合は、次の手順を実行します。
- 1 GUI からプライマリ物理アドレスにアクセスし、GUI を使用して、回復するすべての IO モジュールのバックプレーン ポートを確認します。
  - 2 GUI がダウンしている場合、NXOS `show fex detail` コマンドを使用して、IO モジュールのバックプレーン ポートを確認します。
  - 3 回避策を実行し、両方のファブリック インターコネクットのクラスタの状態が UP になっていることを確認します。
  - 4 両方のファブリック インターコネクットのクラスタの状態が UP になっている場合は、SSH CLI 構文を使用してプライマリ ファブリック インターコネクットのリブートを再確認して、アップグレードを続行します。

```
UCS-A# scope firmware
UCS-A /firmware # scope auto-install
UCS-A /firmware/auto-install # acknowledge primary fabric-interconnect reboot
UCS-A /firmware/auto-install* # commit-buffer
UCS-A /firmware/auto-install #
```

# ファームウェア アップグレード中の IO モジュールの回復

ファームウェアのアップグレード中に IO モジュールを回復するには、ピア IO モジュールからその IO モジュールをリセットします。リセット後に、その IO モジュールはファブリック インターコネクトから設定を取得できます。

## ピア I/O モジュールからの I/O モジュールのリセット

I/O モジュールのアップグレードが失敗したり、メモリ リークにより Cisco UCS Manager から I/O モジュールにアクセスできなくなったりする場合があります。このような場合でも、アクセスできない I/O モジュールをそのピア I/O モジュールからリポートできます。

I/O モジュールをリセットすると、I/O モジュールが工場出荷時の設定に復元され、すべてのキャッシュ ファイルと一時ファイルが削除されますが、サイズ制限付きの OBFL ファイルは保持されません。

### 手順

- 
- ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
  - ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [IO Modules] の順に展開します。
  - ステップ 3 リセットする I/O モジュールのピア I/O モジュールを選択します。
  - ステップ 4 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
  - ステップ 5 [Actions] 領域で、[Reset Peer IO Module] をクリックします。
-